

年頭所感

海上保安庁長官 石川 裕己



新年明けましておめでとうございます。

平成十九年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げま

地道な弛まぬ努力の賜物であり、心から敬意を表する次第であります。
また、昭和六〇年に開始されました洋上救急事業におきましても、制度開始以来の出動件数が六〇〇件に達するなど、洋上における救急救命に大きな役割を果たして頂いており、海を職場とする船員の方はもちろん、ご家族や関係者にとりましても非常に心強い制度であり、内外各方面から高い評価を受けているところであります。

申すまでもなく、この達成の裏には、本

(社)日本水難救済会におかれましては、明治二十二年の創設以来、崇高なボランティア精神のもと、百十余年の長きにわたり水難救済事業を開拓され、これまで約十九万

来業務多忙な中、巡回船や航空機に同乗のうえ、遙か洋上まで往診等の労に当たつていただきいた医師・看護師の方々や協力医療機関等関係者の皆様のご理解、ご協力により成し得たものであり、深く感謝申し上げる次第であります。

皆様ご存知のとおり、日本水難救済会に名にも及ぶ尊い人命と約三万九千隻の船舶を救助するなど、輝かしい歴史と伝統を築き上げてこられました。

これも一重に、全国各地で、日夜、海難等の報に接するや生業を擲つて救助活動に従事していただいている約五万八千名の救難所員の方々を始めとする関係者の皆様の

この間、関係者のご尽力により、我が国沿岸に空白域のない救助拠点の整備や地方

水難救済会の立ち上げ等、体制的にも飛躍的な成長を遂げ、また、実働面におきましても、海上保安庁が行う海難救助を完全に補完していただくなど、官民が一体となつた世界に誇れる海難救助体制が構築できたものであり、この一〇年を一つの区切りとして、更なる体制の強化に向け、新たなステップを踏み出して頂けたらと考えております。

海上保安庁といたしましても、日本水難

救済会を中心とした水難救済体制の充実・発展のため、全面的にご支援させて頂くとともに、緊密な連携のもと、海上における尊い人命と財産の救助に万全を期していく所存でありますので、引き続き皆様方のご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

最後に、全国各地において、人命救助という崇高な使命のもと、ご活躍されている救難所員、医師・看護師等関係者の皆様のご健勝と、貴会の一層のご発展を祈念致しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。